

「打掛花嫁（日本髪かつら）」部門／出場規定

(A) 大会概要

- (1) 日時 2017年 11月 28日(火) 選手受付時間 午前 10:45 【※1】
- (2) 会場 セルリアンタワー東急ホテル (JR・私鉄・東京メトロ「渋谷駅」より徒歩5分) 【※2】
- (3) 当日のタイムテーブル (昨年例)
- | | | |
|-----------------|-------------------------------|--|
| ▶ 10:45 ~ | 受付およびモデル・衣裳の抽選 【※3】 | 【※1】 受付時間および当日のタイムテーブルは、多少変更となる場合があります |
| ▶ 11:00 ~ 11:40 | 出場選手への諸注意、競技説明、その他 | 【※2】 会場地図は別途添付 |
| ▶ 11:40 ~ | ① 競技準備 (約90分) 【※4】 | 【※3】 モデルは受付時の抽選で決定する。なお、選手、モデルには主催者側にて軽食・飲み物を用意 |
| ▶ 13:50 ~ 15:00 | ② 控室競技 (70分/化粧・かつら・角隠し~長襦袢着付) | 【※4】 モデル・衣裳の確認。着付のための下準備 (補整具、長襦袢の衿縫い、小物・用具類の準備、帯をたたむなど) |
| ▶ 15:20 ~ | ③ 舞台競技 (掛下、打掛、おかいどり) + 審査 | かつらの下地づくり |
| ▶ 16:30 ~ | 写真撮影 【※5】 | 【※5】 審査終了後、別会場にて、写真撮影を行う |
| ▶ 17:30 ~ 18:10 | 結果発表および表彰式 | |

(B) 申込み規定

- (1) 出場料 60,000円 (税込)
- (2) 出場券 出場料の入金確認および最終確認書受領次第、送付 【※6】
- (3) 出場資格
- 美容師免許取得者 (助手1名の同伴可) 【※7】
 - 年齢制限なし。性別、国籍は問わない
- (4) その他 原則として、出場料の払い戻しは行わない
- 【※6】 出場券は当日必ず持参のこと。紛失・破損した場合はすみやかに申し出ること。なお、名前、所属の表記に誤りや不備がある場合は、出場券を再発行するのでお知らせ下さい
- 【※7】 助手1名同伴の場合は事前に申告。助手ナンでもよい

(C) 競技概要

- (1) 課題 白無垢打掛花嫁、高島田かつら、角隠し姿
- (2) 審査項目
- 白無垢打掛花嫁にふさわしい、格調高く気品のある装いであること
 - モデルに似合っていて、トータルでバランスがとれていること
 - 技術者としてのマナー
- (3) 競技時間
- ① 競技準備: 約90分 (衣裳、かつら、モデルの確認。競技のための準備を行う。助手は選手の指示の下、競技準備を手伝う) 【※8】
- ② 控室競技: 70分 (化粧、かつら、角隠し、補整~長襦袢まで/時間配分は自由)
- ③ 舞台競技: 掛下着付 20分
- 打掛 (白) 7分 (お引きずり姿、草履なし)
- おかいどり 5分 【※9】
- 【※8】 準備時間中に、不足品 (ヘアスタイリング剤、化粧品、ヘア小物、着付小物、道具類など) は、会場内の出店コマにて購入可能
- 【※9】 ウォーキングできるようにかいどり、打掛、掛下とも上げた裾を紐で結び、草履を履かせる
- 【※10】 受付時の抽選で決定
- 【※11】 モデルと衣裳はセット
- (4) 主催者が用意する物
- モデル (身長 163cm 前後、標準体型) 【※10】
 - 婚礼衣裳一式 【※11】
 - 打掛 (白) ○ 白掛下 (比翼仕立て) ○ 掛下帯 (白、地紋)
 - 花嫁小物 (帯揚げ、丸ぐけ、抱え帯、筥迫、懐剣、末広)
 - 長襦袢 (関西式広衿仕立て・衿芯 [三河木綿] に半衿 [白] 付き) 【※12】
 - 草履 (白)
 - かつら (モデルに合わせ結い上げた文金高島田) 【※13】 ● 弁 (べっ甲色)
 - 角隠し (白・地紋入り/ピン付き) ● 和装用の肌着・裾よけ [ワンピース型]
 - 足袋 ● 敷物 (約 150cm × 約 210cm)
- 【※12】 長襦袢の衿は、広衿となっているため、競技準備中に、三つ衿の所を半分折って衿幅を決め、縫い縫う必要がある。針と糸を必ず用意すること。半衿は、競技準備中に、各自用意した刺繍衿等に付け替えてもよい。衿の中に入れる衿芯 (衿紙) は自由。衿紙用の奉書紙 (大・小) の当日購入も可能
- 【※13】 かつらには、かつら合わせの際のカルテ、スキモを添付
- (5) 出場選手が用意する物
- 出場券 (ゼッケン引換証)
 - 着付に使用する小物・用具類 (腰紐、仮紐・ゴム紐類、伊達メ、帯枕、帯板、補整用品 [タオル、コットン、ガーゼなど]、衿の中に入れる衿芯 [奉書紙や既成の衿芯など]、クリップ、針と糸など) 【※14】
 - 化粧、かつら下地に使用する小物・用具類 (化粧品、ヘアメイク用の鏡、ヘアスタイリング剤、すき毛、ヘアピン類、ゴムなど) 【※14】
 - メイク用のクロスや着付前にモデルが着用するガウンまたは浴衣・帯など (控室で使用)
- 【※14】 不足品 (ヘアスタイリング剤、化粧品、ヘア小物、着付小物、ヘアアクセサリ等) があれば、競技準備中に、会場内の出店コマにて購入可能

※使用する用具、道具については、「(D) 競技規定」に記載の、使用を禁止する用具、道具類以外は、基本的に制約はなく、自由とする

(D)「打掛花嫁（日本髪かつら）」部門／競技規定

- (1) 競技全体
- ① 当日は、主催スタッフの指示に従うこと
 - ② スタッフの指示、諸注意を守らない場合、他の技術者に迷惑となる行為がある場合は、退場させることもある
 - ③ 競技中の不必要な私語は禁止する
 - ④ 選手以外の競技控室への入室を禁止する
 - ⑤ 競技時間の超過、競技終了後の修正は、減点の対象とする
 - ⑥ 助手は、選手の指示の下、選手の補助的な仕事を行なう。助手が行なってはいけない行為については、別紙参照のこと
 - ⑦ 競技準備中、長襦袢や掛下、打掛をモデルに着せてみてもよい（時間があれば練習してもよい）
 - ⑧ 控室競技での時間配分（化粧、かつら、角隠し、補整～長襦袢まで）は自由
 - ⑨ 必要品、不足品があれば、競技準備中に、出店コマで購入できる
 - ⑩ 競技において、モデルの手を借りることは、原則として禁止。モデルをお客さまと想定し、営業でお客さまにさせないことをモデルにさせないこと（例／モデルにメイクをさせる、着付に使う紐や小物をもたせるなど）

(2) 競技内容

【かつら】

- ① かつら（文金高島田）、筭、角隠しは主催者側で用意したものを使用すること（なお、かつらの下地づくり等に必要なスキ毛やカギクリップ、ピン、ネット、かつら下や、かつらを被せたり整えるために必要な道具類は選手が用意する）
- ② かつらの下地づくりは選手が行なう
- ③ 下地づくりは競技準備時間中に行ってもよい
- ④ 下地づくりに必要な整髪料の使用は自由
- ⑤ 筭を固定するための筭どめや元結い等は、主催者側で用意していない。選手が用意すること
- ⑥ 髪の長さ、毛量はモデルにより異なる
- ⑦ かつらには、かつら合わせの際のカルテと、その際に使用したスキ毛等を添付してある
- ⑧ 舞台上でのかつらの修正は不可

【化粧】

- ① 化粧はすべて助手が行なってもよい
- ② 使用する化粧品、道具類、また化粧方法は自由
- ③ 肌を整えるためのスキンケア（化粧水、乳液など）は競技準備中に行ってもよい
- ④ ステージ上での化粧は不可（汗やテカリを押さえる程度は可）

【着付】

▼使用を禁止または指定する用具、道具類

- ① 掛下、帯結び、帯回りの装飾品の使用は不可（着物のアクセサリ、帯飾り、帯留めなど）
- ② 抽選で決定した衣裳（掛下、掛下帯、打掛、花嫁小物一式、草履）を使用すること
- ③ 肌着・裾よけ、足袋、長襦袢は、主催者が用意したものを使用すること
- ④ 既成の台衿、巡礼衿などの使用は不可
- ⑤ アイロンの使用は不可

▼補整について

- ① 補整方法は自由。補整の種類（タオル、コットン、ガーゼ等）や数量に制限はなく、また、してもなくてもよい
- ② 補整具の準備は、競技準備中に行ってもよい。ただし控室競技開始時点で、モデルに補整がしてあってはいけない
- ③ 市販、既成の補整具の使用可

▼長襦袢について

- ① 長襦袢は主催者が用意したもの（関西式広衿仕立て・衿芯〔三河木綿〕に半衿〔白〕つき）を使用する
- ② 長襦袢の衿は広衿となっているため、競技準備中に、三つ衿のところを半分折って衿幅を決め、縫い綴じる必要がある。針と糸を必ず用意すること。なお半衿は、各自用意した刺繍衿等に付け替えても構わない
- ③ 既成の台衿、巡礼衿などの使用は不可
- ④ 衿の中に入れる衿芯は自由（奉書紙、市販の衿芯など）
- ⑤ 長襦袢に紐をつけてはいけない（長襦袢に紐を直接縫い付ける、紐を通す輪を縫い付けるなど）

▼帯・帯小物について

- ① 帯、帯回りの小物類（帯揚げ、丸ぐけ、抱え帯、筥迫、懐剣、末広）は主催者が用意したものを使用する
- ② 競技準備中に、帯を胴に廻しやすいたたんでおいてよい
- ③ 帯揚げ、丸ぐけの結び方は自由。ただし、帯飾り、帯留めなどの装飾品をつけてはいけない

(D)「打掛花嫁（日本髪かつら）」部門／競技規定

- (2) 競技内容 (つづき) ▼着付に使用する紐、道具類
- ① 紐、道具類の種類、使用数に制限はない。きものベルト（コーリンベルトなど）、マジックベルト、打掛ベルト、袖止め、クリップ等の使用も自由
 - ② 衣裳を傷めるような紐、道具類の使用は不可
 - ③ 着付や帯結びで、仮紐や三重ゴム紐（四重、五重ゴム紐）を使用してもよい
 - ④ 使用する腰紐や伊達メなどの色の指定はない（白でなくてもよい）
- ▼おかいどり
- ① おかいどりは、打掛、掛下とも、花嫁が裾を持たず、両手を使えるように、上げた裾を紐で結ぶ
 - ② 使用する紐やおかいどり方法に規定はなく、自由
- (3) モデル ▼モデルについて
- ① モデルは主催者側で用意し、当日の抽選で決定する
 - ② モデルは、主催者側で事前にオーディションを行い、選出（身長、体型、髪長さ、肌状態、姿勢、その他チェック済み）
 - ③ モデルには、化粧品による「かぶれ」「アレルギー」の経験がないことを確認済み。また、大会当日の肌状態、健康状態には十分気をつけるよう伝えてあります
 - ④ モデルには、選手が髪をまとめやすいように、当日の朝のシャンプーは控え、前日夜にシャンプーをするよう伝えてあります
 - ⑤ 花嫁かつらの経験がないモデルもいます
 - ⑥ モデルの了承なしに、眉を剃ったりカットしない（モデルの了承を得て、眉の形を整える程度にカットするのは可）
 - ⑦ モデルの襟足をレーザーや安全カミソリ等の刃物を使用して剃ってはいけません。襟足の処理は、事前に主催者側でチェックしていますが、気になる場合は、担当スタッフに申し出るか、モデルの了承を得て、電気シェーバー等で整えて下さい
 - ⑧ ヘアメイク時に使用するクロス、着付前にモデルが着用するガウンまたは浴衣・帯を忘れずにご持参下さい。下着姿でホテル内のフロア移動はできません
 - ⑨ モデルがステージ上で着用する布製のクロス（肩から足首までが隠れる長さのもの）は主催者が用意します。ただし、控室では使用できません。
- (4) かつら ▼かつらと添付品、選手の準備品について
- ① 当日、結髪師によるかつら合わせのカルテをお渡しします
 - ② かつら合わせをする際に用いた羽二重・クリップ・スキ毛等は、かつらに添付してあります。ただし選手の皆さんがかつら合わせをする際に、調整が必要となる場合もあるので、予備を用意して下さい。なお、添付品を使わず各自用意したものを使用しても構いません。また、筥どめは各自用意して下さい
 - ③ 競技後、かつら、筥等に著しい損傷等が認められた場合、修理代を請求させていただくことがあります
- (5) 服装 ▼当日の服装について
- ① 服装は自由（着物も可）ですが、花嫁のお仕度をする事、会場がホテルであること、技術者であること、ステージ上で競技を行うことを考慮し、婚礼のお仕度をするのにふさわしい装いを心がけて下さい。カジュアルな服装や、作業上好ましくないミニスカート、短パン、Gパン、素足での作業は控えて下さい（助手も同様）
 - ② 靴は着脱しやすいタイプをご用意下さい（ブーツ、スニーカーなど着脱しにくいもの、またカジュアルなサンダルなどは不可）。室内用の選手用スリッパは、主催者側で用意します
- (6) その他 ▼その他
- ① 競技に使用する荷物は、できるだけ当日ご持参ください。諸事情により、事前預かりを希望される場合は、武市昌子杯実行委員会までお問合せ下さい
 - ② 主催者が用意した衣裳類については、使用后、主催スタッフの指示に従い、所定の場所に返却してください。その際、必ずスタッフのチェックを受けて下さい
 - ③ 競技・審査終了後、写場（ホワイエに設置予定）にて写真撮影を行います（写真は後日郵送します）。詳細は当日、説明しますが、係員の指示に従い、すみやかに行動して下さい

【お申込み・お問合せ】

武市昌子杯実行委員会

〒150-0045 東京都渋谷区神泉町5-3 学国際文化学園内

☎ 03-3462-1448 fax03-3770-8745

「打掛花嫁（日本髪かつら）」部門／Q&A

選手の皆さまからのお問合せ・ご質問が多い事項についての回答を以下にまとめました。ご参照ください。
なお、疑問点、ご質問等ございましたら、実行委員会までお気軽にお問合せください。

❶ 助手がしてよいこと、してはいけないこと（○助手がしてもよい／×助手がしてはいけない）

- _モデルに化粧をする（全て行ってもよい）
- _化粧、かつら・笄の装着に必要なものを揃える、選手に渡す
- _競技中、「助手」は、技術者に、全ての紐、小物、用具類を、渡すことができる
- ×_モデルに補整をする（※ただし競技準備時間中に、補整のための準備をするのは構わない）

〈長襦袢〉

- _長襦袢をモデルに着せかける ○_背縫いを背中心に決める ×_衿の抜きを決める ○_決めた衿の抜きを押さえる
- ×_上前、下前の衿を合わせる ○_決めた上前、下前の衿を押さえる ×_胸紐をする ×_裾の長さを決め、合わせる
- _合わせた（決めた）裾を脇で押さえる ×_腰紐をする ×_伊達巻を廻し締める ○_伊達巻を胸に廻すための補助をする
- _伊達巻の紐を結ぶ ×_身頃のシワ取り ×_衿合わせ、裾合わせを整える ×_全体を整え、仕上げる

〈かつら・角隠し〉

- ×_かつらの下地づくり ×_かつらを被せる ×_角隠しを被せる ×_笄をつける

〈掛下〉

- _掛下をモデルに着せかける ○_袖を通し、袖のフリを揃える ○_背縫いを背中心に揃える ○_衿を、長襦袢の衿に重ね、クリップで止めておく ×_裾合わせ ○_合わせた裾を脇で押さえる ×_腰紐を締める ×_後で裾を引き、整える
- ×_下前、上前の衿を合わせる ○_合わせた下前、上前の衿を押さえる ×_胸紐を締める
- ×_伊達巻を廻し締める ○_伊達巻を胸に廻すための補助をする ○_伊達巻の紐を結ぶ ×_身頃のシワ取り
- ×_衿合わせ、裾合わせを整える ×_全体を整え、仕上げる

〈帯結び〉

- _帯を胸に廻すための補助 ○_胸に廻した帯を押さえる ○_帯板を渡す（入れるのは×） ×_帯のテとタレを結び、胸に締める ×_帯を結び、形づける ×_帯ヒダをとる ○_選手の指示の下、テやタレを押さえておく、またはクリップで止める
- _帯枕を渡す ×_帯枕を背におさめる ○_帯枕の紐を結ぶ ×_羽根を形づける
- ×_帯結びを整え、仕上げる ○_帯揚げや帯メの先を、前で仮に結んでおく ×_帯揚げや帯メを結び、整える

〈花嫁小物～掛下仕上がり〉

- ×_筥迫、扇子を挿し、全体をバランスよく整える ×_全てのシワ取り、形づけ ×_抱え帯を結ぶ（位置を決め、整える）
- _抱え帯を廻す補助をする ×_全体を整える

〈打掛〉

- _打掛を着せかける、袖を通す ○_背中心の確認、衿を押さえる ×_前を合わせる ○_袖のフリを揃え、袖付をクリップで止める ×_全体を整える

〈おかいどり〉

- _後ろから、脇縫いを持って上に上げる ○_後ろから押さえるなど、後ろの仕事 ○_草履を履かせる
- ×_メインの仕事 ※表に見える部分や、形づけ、仕上げは、選手が行なうこと

❷ よくある質問と回答

- Q1 ベストタイプの補整具を使用してもいいですか？ ans.) 構いません。補整方法は自由です
- Q2 着物を着せかける時、モデルにたたんだ長襦袢の袖を持ってもらってもいいですか？ ans.) 構いません
- Q3 胸に回した帯のテとタレを結ばず、交差して紐で押さえてもいいですか？ ans.) 構いません
- Q4 着付用のヘラをつかってもよいのでしょうか？ ans.) 構いません
- Q5 きもので出場してもいいですか？ ans.) 構いません